

# ぴったり☆ まとめよう

## 4. 暮らしを守る ② 事故や事件から 暮らしを守る ①

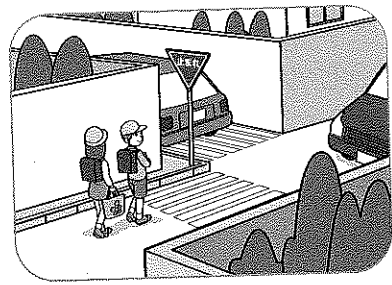
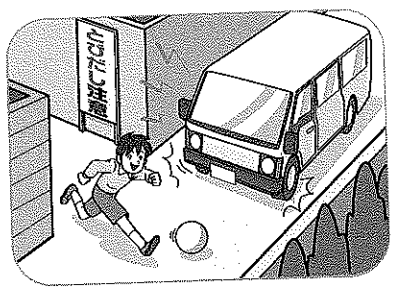
( ) に入る  
ことばを、下から  
えらびましょう。

答え 4ページ

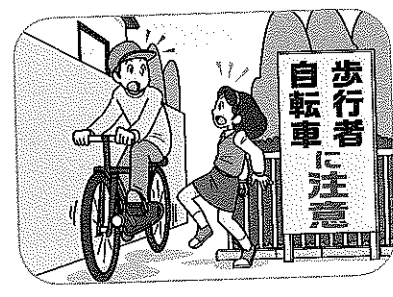
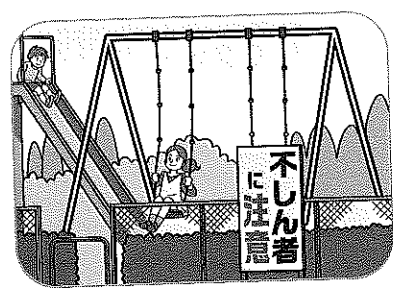
教科書  
38～39ページ

みんなの？ 身近な地いきのあぶない場所はどこなのだろうか。

- (①) )での  
急なとびだし
- (②) )のない  
せまい道



- (③) )に注意  
のかん板
- (④) )の  
きげんな運転



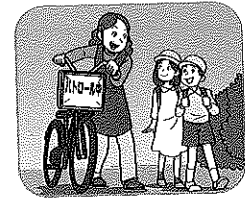
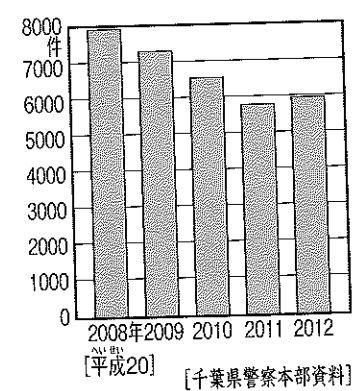
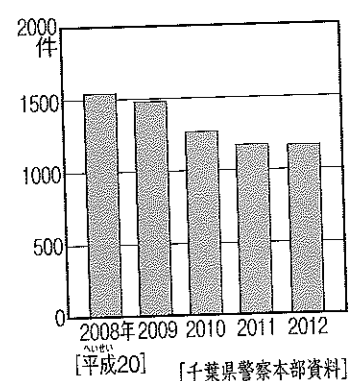
ひょうしきやかん板に  
目を向けると、  
あぶない場所がわかるね。



みんなの？ 暮らしの安全を守るのは、どんな人なのだろうか。

教科書  
40～41ページ

- グラフを見ると、市の事件や事故  
の数は(⑤) )きている。
- (⑥) )や、  
(⑦) )の人が協力して  
暮らしの安全を守っている。



⑤ 市の事故の数の変化

⑥ 市の事件の数の変化

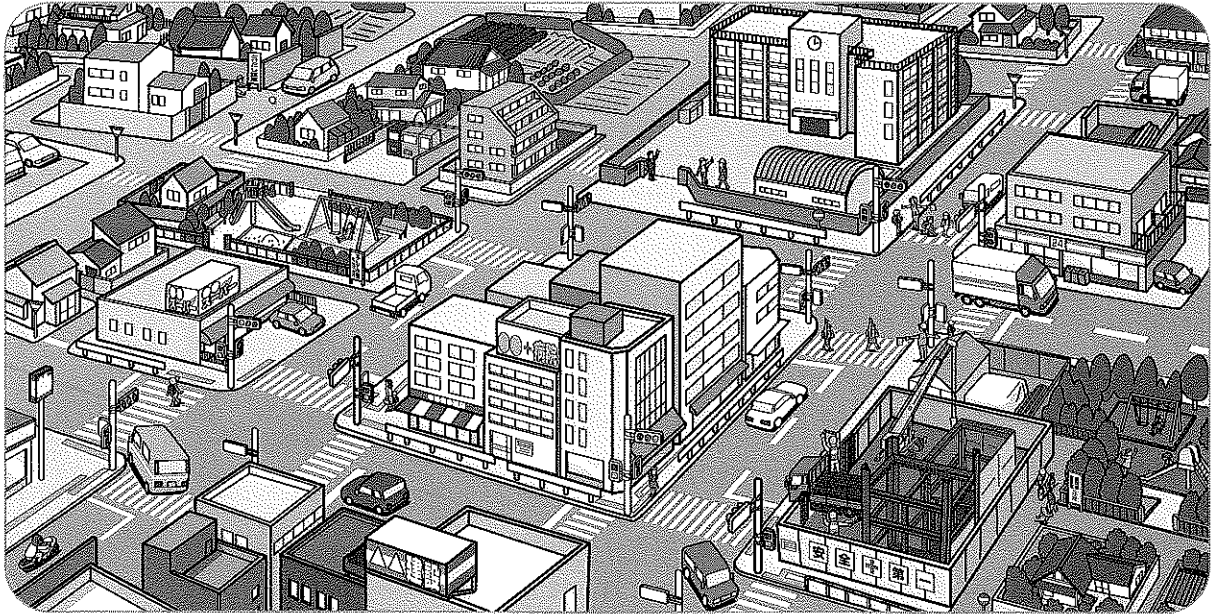
- ( ) に入る  
ことば
- 自転車
  - 交差点
  - けいさつ官
  - 信号
  - へつて
  - 地いき
  - 不しん者



- ★身近な地いきのあぶない場所をおさえよう。
- ★事故が起こりやすい場所の持ちようをまとめてみよう。
- ★グラフのタイトルとめもりに注意しよう。

## 1 身近な地いきのあぶない場所について、次の問いに答えなさい。

(1) 次の図から、きけんな場所をしめすかん板を3つさがして、○でかこみなさい。

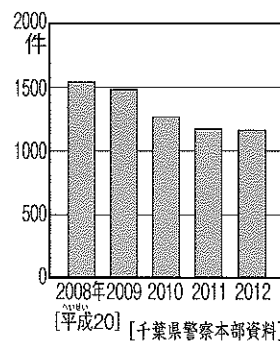


(2) 交通事故が起こりやすい場所を、から2つ選んで、記号で答えなさい。

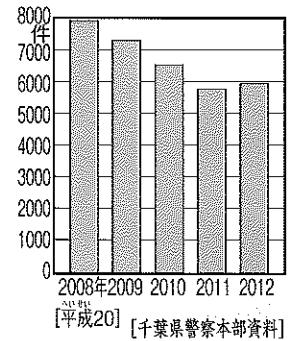
- ㊦ 校庭    ㊩ 交差点    ㊫ 公園    ㊭ 信号のないせまい道

## 2 資料読み取り! 右のグラフは、市の事故の数と事件の数の変化を表しています。グラフから読み取れることとして正しいものに○を( )につけなさい。

- (1) ( ) 2012年は2008年より、事故の数はふえたが、事件の数はへった。
- (2) ( ) 2012年は2008年より、事故の数も事件の数もへった。
- (3) ( ) 事故の数は、2008年が最も少なかった。
- (4) ( ) 事件の数は、2011年が最も少なかった。



○ 市の事故の数の変化



○ 市の事件の数の変化

ここが  
だいじ!

事件や事故は、さまざまな人たちの協力によってへってきている。

- 1 (1) ①2  
②3  
③1  
(2) ㉞, ㉟(順不同)

- 2 (1) 自主防災(組織)  
(2) ㉞, ㉟(順不同)  
(3) ①ひなん  
②道

- 3 (1) ○  
(2) ○  
(3) ×  
(4) ×  
(5) ○

- 4 (1) ㉞, ㉟(順不同)  
(2) ①ていぼう  
②河川じき  
(3) <例>想定されるしん水の深さがしめされている。

- 1 (1) 地震が起きたときは、まずつくえの下にかくれるなど、自分の身を守る必要がある。津波は、地震が起きてから数分後～数十分後に来るので、ゆれがおさまったら、できるだけ高い場所にひなんする。  
(2) ㉞は防火服、㉟ははしご車で、いずれも消防しょにあるものである。

- 2 (1) 自主防災組織は、地いきによりよび方がちがう。  
(2) ㉞ほかんされているきん急の食料の中には何年ももつものもある。㉟ひなん所に食料や日用品がどう着するまでに時間がかかるので、自分でも用意しておく必要がある。

- 3 (3) ひなん場所よりも、津波ひなんビルの数の方が多い。  
(4) 浜松駅のまわりにはひなん場所がある。

- 4 (1) ㉞日本では、年に数回、各地で風水害が起こっている。風水害にそなえて訓練をしておく必要がある。㉞インターネットで知らせると、川の近くに行かなくても、川のじょうきょうがわかる。  
(3) 「災害によるひがいの予測」などの解答でも正解。

## 2 事故や事件からくらしを守る

ひたひた★まどめよう

18ページ

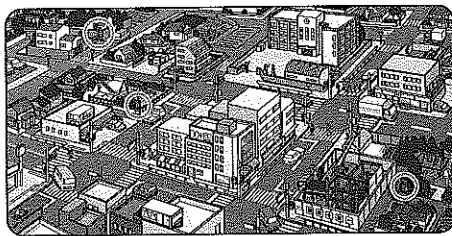
- ①交差点 ②信号 ③不しん者 ④自転車 ⑤へって ⑥けいさつ官 ⑦地いき

ひたひた★やってみよう

19ページ

てびき

- 1 (1) 下の図



- (2) ㉞, ㉟(順不同)

- ㊦ (2), (4) (順不同)

- 1 (1) きけんな場所をしめす黄色いかん板は、交差点や見通しの悪いところ、人通りの少ないところなどに立てられている。このようなかん板が立てられている場所では、以前に事件や事故がじっさいに起こっていることも多いため、注意が必要である。

- (2) 交通事故は、交通量の多い交差点や見通しの悪いところ、信号のないせまい道などで起こりやすい。㉞の校庭や、㉟の公園は、自動車や自転車が入ってこないため、交通事故はあまり起きない。

- 2 グラフのタイトルや年代、めもりに着目する。

- (1) 市の事故の数も事件の数もへっている。この背景には、けいさつの活動に加え、地いきの人々の協力がある。

- (3) 市の事故の数は、2008年が最も多かった。